

医師・看護師・介護職員的大幅増員を 日本医労連増員闘争ニュース

第 90 号

2010 年 5 月 14 日

日本医労連増員闘争本部

TEL: 03-3875-5871

FAX: 03-3875-6270

5/13 比陸中 朝刊

(第3種郵便物認可)

看護職員「辞めたい」73%

県医労連
まとめ 過酷な勤務を反映

石川県内の看護職員（看護師や保健師、助産師）の勤務実態や健康状態などについて、県医療労働組合連合会（医労連）が昨年十一月～今年一月に実施した調査で、仕事を辞めたいと「いつも思う」「ときどき思う」と答えた看護職員が73%に上ったことが分かった。調査は国立や民間の病院など十三施設のうち、五施設の看護師や准看護師ら二百八十九人から回答を得た。県医労連は調査結果を受け、「人手不足による過密労働の実態を反映している」と労働条件の改善を病院などに求めている。

このほか調査結果では、勤務中の休憩時間が「あまり取れていない」「全く取れていない」とした人は準夜勤だと73・8%、深夜勤でも60・7%を占めた。自らの健康状態に対しては、「不安」「大至不安」と考える人が55・7%に達した。

一方、仕事上のミスやニアミスについて、82・7%の人が過去三年間で「起こしたことがある」と答えた。県医労連の馬渡健一書記長は「ヒューマンエラーを十分にチェックで

きていない実態もある。人手不足は医療の安全上も大きな問題がある」と訴えている。

石川県医労連

次ページ富山県医労連

富山新聞



看護師の88%が
ミスやニアミス
県医労連が調査

県医労連は12日、組合員の看護師を対象に実施した看護実態調査の結果を発表し、回答者の88・7%が過去3年間に仕事上でミスやニアミスを経験しているとした。

ミスやニアミスの内容は、点滴や支給薬の間違いなどだった。このほか、看護師本人の健康状態について「早期に改善が必要な慢性疲労」が78・7%、「健康不安」が73・6%、「切迫流産」が41・2%などだった。県医労連は今後、国や県などに対し、看護師の労働条件の改善を求める。実態調査は、全国調査に合わせた昨年10月から今年1月にかけて実施し、県内では714人から回答を得た。

5/13 北陸中日新聞

(第3種郵便物認可)

看護職員「辞めたい」8割

県医労連 まとめ 過酷な勤務浮き彫り

富山県内の病院に勤務する看護師や保健師ら看護職員の8割が勤務の厳しさを理由に「仕事を辞めたい」と考えていることが、同県医療労働組合連合会（医労連）が12日に発表した看護職員の実態に関する調査結果で明らかになった。全国平均を上回っており、医療の担い手の過酷な労働実態が浮き彫りになった。

日本医労連が昨年10月～今年1月にかけて実施した調査から、県医労連が県内分をまとめた。七百十四人から回答があった。

「仕事を辞めたい」という回答が83・6%にのぼり、県医労連が二〇〇五年に行

った意識調査の回答（約70%）と比べて7%が「起こしたことがある」と答え、医療事故と隣り合わせで働く現状も分かった。（永井響太）

看護師83.6% 「仕事辞めたい」

うち、714人が回答した県内分をまとめた。

仕事を辞めたいかという質問に対し、「いつも思う」ときどき思う」と答えた人は合わせて83・6%で、全国平均を4・3%上回った。「いつも疲れている」は27・7%で、全国平均より5・2%高く、賃金不払い労働時間が「月10時間以上」と回答した人も全国平均と比べて8・8%多い22・7%だった。

平成18年に導入された患者7人に対し看護師1人を配置する「7対1看護」により、有給休暇や週休が取りにくくなった」と答えた人は61・4%で、全国平均の39・6%を大きく上回った。

県内調査 全国平均上回る